

第193回 全経簿記検定試験 上級 一 会計学一

模範解答

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題 1 [完答（正誤および理由）につき各 4 点，合計 40 点]

	正誤	理 由
1.	○	
2.	○	
3.	×	同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債は、双方を相殺して表示する。
4.	×	当期変動額は変動事由ごとにその金額を表示する。
5.	○	
6.	×	時価は、原則として正味売却価額とし、再調達原価の方が把握しやすく、正味売却価額が当該再調達原価と歩調を合わせて動く想定される場合には、再調達原価によることができる。
7.	○	
8.	×	連結財務諸表におけるその他の包括利益には、親会社株主に係る部分と非支配株主に係る部分が含まれる。
9.	○	
10.	×	収益及び費用については、原則として期中平均相場による円換算額を付す。ただし、決算時の為替相場による円換算額を付すこともできる。

問題 2 [丸文字は配点を示す, 合計 40 点]

問 1	用語	
(a)	株主資本	⑤
(b)	評価・換算差額等	⑤
(c)	新株予約権	⑤
(d)	自己株式	⑤
(e)	任意積立金	⑤

問 2

自己株式の消却	⑤
---------	---

(別解) 自己株式の処分差損, その他資本剰余金からの配当

問 3

<p>その他資本剰余金の残高が負の値となった場合には, 会計期間末において, その他資本剰余金を零とし, 当該負の値をその他利益剰余金(繰越利益剰余金)から減額するという処理が必要になる。</p>	⑩
--	---

問題 3 [丸文字は配点を示す, 合計 20 点]

問 1

<p>連結会社相互間で行われた取引は, 企業集団内部の取引の結果にすぎないため, 連結決算上は相殺消去する必要があるためである。</p>	⑩
--	---

問 2

<p>親会社株主だけでなく企業集団を構成するすべての関連会社の株主の立場から連結財務諸表を作成するという経済的単一体説に基づいて, 非支配株主との取引は資本取引に該当することとなるためである。</p>	⑩
--	---